



いがらし いさむ 五十嵐 勇 (学術) 故人

明治25年(1892年)1月18日 生

昭和61年(1986年)3月7日 没

【写真は株式会社UACJ提供】

(享年94歳)

五十嵐勇氏は玉名市出身。住友合資会社へ入社後、東北帝国大学金属材料研究室への留学や、銅合金、鋳物用及び鍛練用マグネシウム合金やその耐食性に関する研究を行うなど様々な合金の研究に取り組んだ。

昭和10年に海軍航空廠から住友金属工業株式会社への開発要請を受け、氏は超々ジュラルミンの開発に着手するが、それ以前に佐藤貢氏との共同研究で超々ジュラルミンに近い成分の試験(昭和3年)や開発の決め手となったクロム添加についても強度と耐食性を比較してクロム添加が最良との報告(昭和8年)をすでに行っていた。そのため同年8月には五十嵐氏は超々ジュラルミンについて開発の第一報を行っている。軽くて強いアルミニウム合金には「数ヶ月経つと割れる」という弱点があったが、割れを短時間で起こす実験方法を生み出し、その後に様々な物質を加えた合金を作って割れるかどうか試すという逆転の発想で、超々ジュラルミンの開発に成功した。超々ジュラルミンは、零式艦上戦闘機(通称 ゼロ戦)の主翼の骨組み部分に使われ、軽量化した零式艦上戦闘機は、速力、上昇力、航続力において非常に優れたものとなった。終戦後、氏は住友金属工業株式会社を定年退職、東北大学・秋田大学・岩手大学で教授を務め、住友金属工業株式会社研究顧問に就任するなど後進の育成に尽力した。

なお、改良された超々ジュラルミンは、航空機の機体以外にも鉄道車両、自動二輪車、自動車のアルミホイールなどの輸送機器のみならず、野球の金属バットやスキーの板、ストックなどのスポーツ用品、また、スマートフォンのボディなど、様々なところで利用されており、現在の我々の生活を鑑みたときにその功績は多大である。

これらの功績により勲三等旭日中綬章、本多記念賞を受賞している。

大正11年 京都帝国大学理学部物理学科卒業、住友合資会社入社

昭和11年 海軍からの要請を受け、超々ジュラルミンを開発

昭和21年 東北帝国大学から講師招聘

昭和22年 東北大学(東北帝国大学から改称)工学部教授就任

昭和26年 秋田大学鉱山学部教授を兼任

昭和33年 岩手大学教授就任

昭和43年 叙勲「旭日中綬章」受章